

## 9 消防団概要

昭和38年、五市合併による北九州市の発足に伴い、門司消防団、小倉消防団、若松消防団、八幡消防団、戸畑消防団、洞海湾消防団の6団、89分団2,979人となりました。

昭和49年、北九州市の行政区再編成と併せてスタートした「消防団の近代化計画」により、門司消防団、小倉北消防団、小倉南消防団、若松消防団、八幡東消防団、八幡西消防団、戸畑消防団、洞海湾消防団の8団、8本部、69分団、定員2,030人の体制となり現在に至っています。

### (1) 消防団の現況

#### ア 組織等

門司消防団…1本部…11分団…7支部 八幡東消防団…1本部…7分団…2支部  
 小倉北消防団…1本部…9分団…1支部 八幡西消防団…1本部…12分団…2支部  
 小倉南消防団…1本部…14分団…13支部 戸畑消防団…1本部…5分団  
 若松消防団…1本部…7分団…5支部 洞海湾消防団…1本部…4分団

【第80表】消防団の定員・現員

(令和3年4月1日現在)

区分	消防団	分団	計	消防団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
計	8	69	2,030 (1,840)	8 (8)	16 (16)	92 (91)	83 (81)	149 (142)	336 (303)	1,346 (1,199)
門司	1	11	338 (326)	1 (1)	2 (2)	14 (14)	13 (13)	24 (23)	56 (48)	228 (225)
小倉北	1	9	244 (190)	1 (1)	2 (2)	12 (11)	11 (11)	20 (16)	42 (33)	156 (116)
小倉南	1	14	452 (421)	1 (1)	2 (2)	17 (17)	16 (15)	30 (30)	74 (69)	312 (287)
若松	1	7	222 (222)	1 (1)	2 (2)	10 (10)	9 (9)	16 (16)	38 (37)	146 (147)
八幡東	1	7	204 (187)	1 (1)	2 (2)	10 (10)	9 (9)	16 (16)	35 (34)	131 (115)
八幡西	1	12	340 (295)	1 (1)	2 (2)	15 (15)	14 (14)	26 (26)	55 (52)	227 (185)
戸畑	1	5	140 (120)	1 (1)	2 (2)	8 (8)	7 (6)	12 (10)	25 (23)	85 (70)
洞海湾	1	4	90 (79)	1 (1)	2 (2)	6 (6)	4 (4)	5 (5)	11 (7)	61 (54)

(注)1 ( )内は、現員

2 定員は、北九州市消防団の組織等に関する規則第4条ただし書きの規定により、臨時に定員及び配置を変更した数

【第81表】消防団員の報酬・費用弁償

(令和3年4月1日現在)

報酬 (年額/円)									費用弁償 (出勤1回当り/円)				
消防団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機関員	機関員補助者	災害			警戒	訓練
									(活動有り)		(活動なし)		
									5時間越	5時間以下			
82,500	69,000	50,500	45,500	37,000	37,000	36,500	20,000	10,000	14,000	7,000	4,400	4,400	4,400

【第82表】消防団員の年齢

(令和3年4月1日現在)

区 分	平均年齢	計	18歳～ 20歳	21歳～ 25歳	26歳～ 30歳	31歳～ 35歳	36歳～ 40歳	41歳～ 45歳	46歳～ 50歳	51歳～ 55歳	56歳～ 60歳	61歳以上
計	43.3	1,840	45	104	137	160	270	308	300	228	174	114
門 司	43.4	326	6	12	39	27	46	53	44	42	36	21
小倉北	43.3	190	5	15	8	13	31	38	27	26	18	9
小倉南	44.3	421	7	16	18	37	65	79	73	69	31	26
若 松	43.1	222	8	9	18	29	28	27	46	22	15	20
八幡東	43.7	187	9	17	13	11	18	25	34	21	20	19
八幡西	42.3	295	8	24	26	18	47	50	48	29	33	12
戸 畑	42.2	120	2	8	6	15	21	21	22	11	10	4
洞海湾	42.5	79	0	3	9	10	14	15	6	8	11	3

(注)全体の平均年齢は、各消防団の平均年齢から算出

【第83表】消防団員の在職年数

(令和3年4月1日現在)

区 分	平均在職年数	計	5年未満	5年～ 9年	10年～ 14年	15年～ 19年	20年～ 24年	25年～ 29年	30年以上
計	12.8	1,840	184	434	410	296	250	122	144
門 司	13.0	326	27	66	72	62	47	20	32
小倉北	12.0	190	19	47	40	29	27	13	15
小倉南	11.2	421	36	108	104	71	60	17	25
若 松	12.1	222	27	52	50	27	28	14	24
八幡東	11.6	187	27	42	38	21	34	12	13
八幡西	12.1	295	32	77	54	43	37	29	23
戸 畑	11.6	120	9	24	32	27	12	11	5
洞海湾	12.1	79	7	18	20	16	5	6	7

(注)全体の平均在職年数は、各消防団の平均在職年数から算出

イ 施設・機材等

【第84表】消防団施設

(令和3年4月1日現在)

項 目	分 団 本 部	分 団 支 部
施 設 数	65箇所	30箇所
敷地面積 (基準)	330㎡	100㎡
建物構造 (基準)	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
建物面積 (基準)	約100㎡	約35㎡
工 作 物	ホース乾燥台	

【第85表】消防団機材等の配置

(令和3年4月1日現在)

区 分		門 司	小倉北	小倉南	若 松	八幡東	八幡西	戸 畑	洞海湾	計
分 団 本 部		11	9	14	7	7	12	5	4	69
分 団 支 部		7	1	13	5	2	2			30
車 両	指 揮 車	1	1	1	1	1	1	1	1	8
	ポ ン プ 車	11	8	14	7	7	12	5		64
	小型動力ポンプ積載車	7		13	5	2	2			29
	自 走 式 搬 送 車		2							2
そ の 他	消 防 艇								(8)	(8)
	携 帯 無 線 機	12	11	15	8	8	13	6		73
	無 線 受 令 機	19	9	28	13	10	15	6	1	101
ト ラ ン シ ー バ ー	217	151	298	145	127	202	85	10	1,235	
発 動 式 発 電 機	24	11	29	13	10	28	6		121	
投 光 器	25	11	17	8	18	30	6		115	
メ ガ ホ ン	22	11	38	1	10	18	6	1	107	
強 力 ラ イ ト	72	48	109	34	38	72	28	3	404	
警 戒 ロ ー プ	26	20	33	8	9	24	10		130	
担 架	32	20	46	13	23	34	10		178	
ス コ ッ プ ( 角 )	40	20	33	21	26	23	17		180	
ス コ ッ プ ( 剣 )	113	100	234	33	36	117	42		675	
つ る は し	16	12	25	13	7	18	7		98	
が ん づ め	46	27	75		8	39	20		215	
ベ ン チ	15	18	17	8	8	22	6		94	
金 槌	26	20	44	13	11	25	8		147	
掛 矢	30	20	44	13	11	30	11		159	
鎌	68	47	99	21	28	53	22		338	
鋸	33	21	26	7	6	26	10		129	
救 命 胴 衣	200	153	377	138	155	214	85	70	1,392	
可 搬 式 散 水 器	67	34	58	16	23	45			243	
鉈	18	19	33	10	7	25			112	
リ ュ ッ ク サ ッ ク	29	21	48	7		5			110	
水 筒	53	40	64	23	6	34			220	
防 塵 メ ガ ネ	255	129	142	160	87	159	28		960	
防 塵 マ ス ク	233	186	428	160	125	227	125		1,484	
蛍 光 チ ョ ッ キ	53	26	71	40	22	49	27		288	
合 図 灯	59	34	93	35	35	57	27		340	
40mm ホ ー ス	81	45	31	61	56	86	60		420	
50mm ホ ー ス	198	91	198	129	116	245	58		1,035	
65mm ホ ー ス	448	269	480	289	259	501	163		2,409	
万 能 斧	17	9	24	13	8	16	6		93	
ワ イ ヤ ー ロ ー プ	4	6	12	7	3	12	6		50	
チ ェ ー ソ ー	11	10	14	7	7	12	5		66	

(注)1 可搬式散水器・なた・リュックサック・水筒は、管内に山林を擁する分団に配置

2 消防艇の( )内は、民間艇

(2) 消防団の活動等

【第86表】消防団員の教育・訓練等実施状況

(令和2年度)

区分	項目	対象者	期間等	人数等	内容
消防学校	消防大学校消防団長科	副団長以上	5日間	1	消防団の上級幹部として必要な知識や技術を総合的に習得させ、資質の向上を図る
	県消防学校指揮幹部科 分団指揮課程	分団長 副分団長	年1回	7	分団長又は副分団長として必要な知識・技術の習得
	県消防学校指揮幹部科 現場指揮課程	部長	2日間	6	部長として必要な知識・技術の習得
	県消防学校初級幹部科	部長・班長	2日間	6	指導者として必要な知識・技術の習得
	消防操法研修	未修了の者	2日間	7	消防ポンプ操法に関する知識の習得
消防局	初任科研修	団員	年1回	中止	団員として必要な基礎知識・技術の習得
	幹部科研修	班長以上	年1回	中止	幹部として必要な知識・技術の習得
	女性消防団員研修	女性消防団員	年1回	55	防火・防災に関する各種訓練
	応急手当普及員講習	女性消防団員	3日間	13	応急手当普及員の資格取得
	署・団連携消防活動 実戦訓練	指定分団	平日夜間	中止	建物密集地での火災を想定した実戦訓練
	後期警防技術錬成会	指定分団	年1回	中止	建物火災を想定した実戦訓練
各署・各団	警防技術訓練	全消防団員	随時	全消防団員	消防団員として必要な警防技術の習得
	機関員訓練	機関員及び 機関員補助者	随時	300人程度	機関員として必要な技術の習得
	人権研修	全消防団員	年2回	全消防団員	人権研修等
	安全運転管理者研修	副団長	年1回	7	安全運転管理者講習
	他都市視察研修	分団長以上	年1回	中止	他都市の消防団運営状況視察
	年間計画に基づく訓練	全消防団員	随時	全消防団員	各消防団で計画を立て規律訓練、放水訓練等を実施
市消防協会	消防協会研修	全消防団員	年1回	中止	消防協会主催による消防団員研修
	他都市視察研修	消防団長	年1回	中止	他都市の消防団情勢の視察
その他	定期健康診断	農業・漁業等 自営業者	年1回	399	消防団員の健康管理と疾病による公務災害の未然防止を図る

【第 87 表】消防団に対する表彰

(令和2年度)

表 彰 区 分	内 容	計
叙 勲	瑞 宝 単 光 章	5人
北九州市長表彰	優良表彰（退職消防団員）	41人
福岡県知事表彰	永 年 勤 続	47人
消防長表彰	優 良 表 彰	11人
消防団長表彰	優 良 表 彰	25人
福岡県消防協会長表彰	優良消防団（竿頭綬）	3分団
	優良消防団員	78人
	永年勤続 35年以上	9人
	永年勤続 30年以上	9人
	永年勤続 25年以上	29人
	永年勤続 20年以上	49人
	永年勤続 15年以上	48人
	永年勤続 10年以上	108人
	親子・夫婦・兄弟消防団員	7組
北九州市消防協会長表彰	優 良 団 員	41人
消防庁長官表彰	永 年 勤 続 功 労 章	8人
日本消防協会長表彰	功 績 章	3人
	精 績 章	4人
	勤 続 章	9人
合 計	3分団・7組・524人	

【第 88 表】消防団員の活動実績

(令和2年度)

項 目	合 計	災害活動	年末警戒・祭礼等警戒活動	訓練・研修・予防広報活動
延べ出動人員	21,784人	4,985人	4,419人	12,380人
消防団員1人当たりの出動回数	11.6回	2.6回	2.3回	6.6回

(注) 「消防団員1人当たりの出動回数」は、令和2年4月1日現在の現員（1,884人）を用いて算出

【第 89 表】消防団員の公務災害発生状況

(令和2年度)

区 分	計	門 司	小 倉 北	小 倉 南	若 松	八 幡 東	八 幡 西	戸 畑	洞 海 湾
計	1	0	0	1	0	0	0	0	0
災害現場	1			1					
警防訓練	0								
その他	0								

## (3) 女性消防団員の取組み

消防団の活性化を図り、地域と密着した親しみのある消防団を目指すため、昭和63年度から5か年計画で女性消防団員128人を採用しました。また、活動業務のさらなる充実を図るため、平成12年度から増員を図り、平成17年度には定員を154人としています。

## 【第90表】女性消防団員の現員

(令和3年4月1日現在)

所属	計	門司	小倉北	小倉南	若松	八幡東	八幡西	戸畑
人員	143	21	17	28	18	17	24	18

## 【第91表】女性消防団員の活動実績

(令和2年度)

種別	計	研修	訓練演習	年末警戒 祭礼警戒	予防広報	いきいき安心訪問
回数	141回	102回	25回	8回	6回	0回 (訪問世帯数)
延べ活動人員	1,311人	945人	271人	48人	47人	0人 (訪問団員数)

## (4) 関係団体

## 【第92表】北九州市消防協会

(令和3年4月1日現在)

区 分	内 容
設 立	昭和39年7月1日
目 的	北九州市8団の緊密な連携のもと、消防団活動の円滑な運営を行うため、消防の知識・技術の向上と調査研究、消防諸施設の改善、福利厚生の実施等により、消防力の強化を図るとともに消防思想を普及し、もって市民の災厄を防除し公共の福祉の増進に寄与すること。
会 員	消防団員
名 誉 会 員	本会のため功労顕著な者及び学識経験者
賛 助 会 員	本会の趣旨を賛同し金品等を寄与した者
役 員	会長1人、副会長1人、常任理事8人（正副会長を含む） 共済委員16人（事務局長及び監事を含む）、監事2人、事務局長1人、代議員8人
経 費	北九州市補助金（協会事業費は全額補助金、共済事業費は会員会費及び補助金）